

令和6年度 重点目標・行動計画 自己評価

評価 A 達成 B 一定達成 C 十分達成していない O 現時点では未評価

1 中等教育学校教育実践の振り返り中高一貫教育の特長を

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
①成果と課題の整理から次なる改善と3つのポリシー策定	B	3つのポリシーの原案を作成することができた。さらに議論を深め、令和7年度にWeb上で公表する運びとなっている。
②性暴力の当事者にしないための生命の安全教育、性教育の体系化に基づく実践	C	新たな取組も行ったが、計画通りに十分進めることはできなかった。性に関するトラブルが発生したが、当該生徒への指導は十分に行うことができた。性教育の重要性を再認識したので、次年度は早い段階から計画的に進めたい。
③差別をなくすための人権教育の体系化に基づく実践	B	各学年が設定した人権課題について、一定の時間をかけて学習に取り組むことができた。
④広報活動のさらなる充実、SNSを活用した情報発信の導入	B	HP記事更新は平均して週2～3回行った。Instagramを8月に開設し、行事や入試情報など発信した。今後はさらなる活用を進めていく。
⑤シラバスの適正化、授業研究の推進	B	教科と学年が連携協力し、授業研究を積極的に実施できた。指導の実態に応じたカリキュラム・シラバス作成もほぼ完了している。次年度に向けて実態に応じた改訂を加えていく予定である。

2 進学指導の充実

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
①キャリア教育の体系化と各学年の取組ガイドラインの策定と実践	B	様々な行事を含めキャリア教育の実践時期の可視化などを含め体系化をすすめることができた。今後は実践をしながらベストプラクティスを積み上げていく。
②総合型選抜や学校推薦型入試への対応 小論文・面接・志願書等への対応強化	B	毎年増加している総合型選抜・推薦型入試を受験する生徒に対して丁寧に小論文・面接・志願書作成などの対策を実施することができた。担任及びキャリアアドバイザーによる個別指導が充実した。

3 主体性ある生徒の育成

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
①主体的な学びを促進する指導法の研究および実践	B	多少の教科間の差はあるものの、主体的な学びの在り方に関する授業研究が実施できた。生徒が自ら学習を深めるために、個々の状況に応じた課題・補習設定も行うことができた。
②自ら進んであいさつをする生徒の育成	B	寒くなるにつれ、朝の挨拶をする生徒数が減少した。なかでも外部からの訪問者に対し、しっかり挨拶できることが課題となっている。その一方、廊下等で自ら進んで挨拶する生徒は増えた。生徒会が主体的に挨拶運動するなど、生徒会の意欲的な活動がみられた。
③生徒会活動の活性化	A	執行部会の週1回以上開催に加え、Google Chatを活用して生徒会役員と顧問の全員で情報共有をするなど意思疎通を図り、先を見通して計画的かつ円滑に生徒会活動を進めることができた。 また、生徒会活動について掲示板により生徒に伝えることができた。さらに、始業式や終業式の後には時間を取って生徒会の取組を直接生徒に知らせることもできた。
④防災意識向上を目指して 生徒防災リーダーの育成	B	本年は、後期課程生徒2名が県教委主催の学校防災ボランティア事業に参加し、被災地(能登)へ訪問した。事業を通じて学んだ内容を学内で発表し、他の生徒の防災意識の向上につなげた。

⑤校外のコンテスト、ボランティア活動、英検等資格取得の奨励	B	<p>持てる能力を各種コンテスト等で十分に発揮した生徒が複数名いた。中には全国レベルに達している生徒もいる。ボランティア活動についてはクラブ員や有志が地域の取組に貢献した。</p> <p>本年度英検等の資格取得で表彰した生徒総数は37名となった。</p> <p>なお、英検の受験者数が減ったことは次年度の課題とする。</p>
⑥一人一台パソコンの導入(1年生)とICT教育の充実	B	<p>一人一台パソコンの導入およびその活用については、今後成果報告(活用事例等)を行うとともにその効果などについて検証していく。これから年次進行で、一人一台パソコンの体制が整備されていくため、具体的な実践を共有し、検証を重ねながらより一層のICT教育の充実につなげる。</p>

4 教育環境の向上

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
①ベルアリーナ、サブアリーナの床改修と空調機器設置	B	7月に床の全面改修、9月に両施設に空調設備を設置し、熱中症への対応ができた。
②西館トイレのリニューアル(全面シャワートイレの設置)	B	10月末に温水洗浄便座の設置、塗装工事や鏡の交換を行った。なお、設置率は95%となった。
③本館バリアフリー化に向けての研究および準備	B	エレベーターの設置に向けて大まかな経費積算を行ったが、引き続き検討を行い、令和8年度の設置を目指す。

5 教職員にとってやりがいのある環境づくり 働き方改革に向けて

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
①業務の見直し、改革・削減をめざして、新たな統合型校務支援システムの今年度導入による業務効率化のさらなる推進	B	統合型校務支援システムにより、出張や年休等の申請をはじめ、多くの事務作業が効率化された。今後もさらにより良いシステムとするための改修を検討していく。
②業務のスクラップ&ビルドの推進	C	上記のとおり、一定の業務改善はなされたが、スクラップが十分に進んだとは言えない。今後は事務処理関係のシステム化に取り組みたい。
③施設設備の中期計画(令和7年度～16年度)策定	B	委員会を設置し、各部門ごとの情報収集や意見集約を行った。次年度以降は、各事業を具体的に予算化及び実施にむけた作業を行っていく。

6 創立40周年(令和8年)記念事業

創立40周年(令和8年)記念事業の計画準備	B	記念講演講師への依頼および会場の選定を実施した。
-----------------------	---	--------------------------

1学年 何事にも全力で取り組む

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○総合や学活を通して、生徒間の交流の機会を多く持ち、様々な考えや価値観に触れる	B	キャリア教育を通して、自分の将来について考えながら、今の自分にとって興味や関心のあることについて理解を深めることができた。また、生徒同士で意見交換する機会を設け、自分とは違う意見や価値観に多く触れ、それぞれが考えを深めた。
○自己管理・挨拶 手帳、Classi の入力率100% 提出物の提出率 100% 挨拶 聞こえる声で挨拶ができる 100% 自ら挨拶ができる 70%以上	B	Classiの記入率は80～90%であり、ほとんどの生徒が記入できている。しかし、まだ習慣化できていない生徒も多く、教員からの声掛けが必要である。提出物の提出率に関しては、教科担当者や担任から声掛けを行い100%を目指している。挨拶については、こちらから挨拶をすれば、聞こえる声で挨拶を返してくれる生徒は90%程とほとんどの生徒ができていたが、自ら挨拶となると、できていない生徒がまだ目立つ状態である。
○学習面 学習時間 平日1時間以上、休日3時間以上 BCの平均得点率 医進：80%以上 特進：60%以上 全体：70%以上	B	<学年の平均学習時間> 平日約50分、休日約113分 という現状である。 目標に届かず。特に休日の時間の使い方を考えさせていく必要がある。 <BCの平均得点率> 医進94%、特進87%、全体90% という現状である。 目標を達成することができた。BCを中心に学習サイクルを構築できている生徒が多く見受けられた。
○第2回学力推移調査(9月実施) 偏差値A1以上30名以上、B1以上60名以上	A	<第2回学力推移調査のGTZ> A1以上 31名、B1以上 67名 という現状である。 目標を達成することができた。次年度に向けて、学習時間と演習量を増やしていけるような取組を英語と数学を中心に検討している。
○英語検定 英検取得者数 70%以上	A	英検取得者数(75.4%) 5級 16名、4級 47名、3級 16名、 準2級 6名、2級 0名、準1級 1名であった。

2学年 基礎・基本の完成

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○長期休暇を利用し、学問調べや職業調べ取り組み	A	夏期休暇に行った企業訪問で、社会の仕組み、企業の役割を知るとともに、今後社会の一員としてどのように関わっていくべきかというキャリアイメージを持つきっかけとすることができた。
○手帳とClassi の入力100%、忘れ物0に	B	手帳、Classiともに、学年の8割の生徒は習慣化できているが、定着できていない生徒もおり、忘れ物も0とはいかなかった。
○学習時間 課題などの取組を除いて、平日60分以上、休日180分以上	C	校内平均平日57分、休日2時間(1月実施の第3回学力推移調査より)であり、特に休日の学習習慣の定着がはかれなかった。
○第2回学力推移調査(9月実施) 偏差値 A1以上25名以上、B1以上65名以上、 D層 10名未満	B	A1以上22名、B1以上66名、D層8名(第2回学力推移調査より)とほぼ目標を達成できた。
○英語検定 3級以上取得者または受験者数 90%以上	C	第3回までの英検の状況が、3級以上取得76名(58.5%)(準2級23名、2級4名、準1級1名、1級1名)となり、英検に向けての取組が不十分であった。

3学年 明るく、楽しく、元気よく

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○第3回学力推移調査(1月実施) 偏差値 A1以上16名以上、B1以上45名以上、 D層10名以下	B	A1以上15名でほぼ達成し、B1以上は55名と目標値を上回った。また、D層5名でこちらも目標値を十分達成することができた。
○英語検定 準2級以上40名以上、3級以上80名以上	B	英検取得準2級以上は44名で目標値を達成し、3級以上は76名と目標値に近づけることができた。
○学年団の研鑽 研究授業を年7回以上実施し、 授業力の向上業務の精選	B	事後検討会も含めて、学年団の研修は年間5回実施することができた。

4学年 百折不撓

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○スタディーサポート・進研模試 総合・各教科 A1以上35名以上、B1以上90名以上	C	9月実施の第2回スタディーサポートにおいて、A1以上36名、B1以上74名となり、A1以上は達成できたが、B1以上は及ばなかった。 11月実施の進研模試において、A1以上が25名、B1以上が69名となり、どちらも及ばなかった。
○全統高1模試 総合・各教科 偏差値60以上 35名以上、50以上90名以上	C	1月実施の第4回全統高1模試において、偏差値60以上18名、50以上56名となり、目標達成はできなかった。
○英語検定 2級以上45名以上、準2級以上90名 以上	C	2級以上34名、準2級以上81名となり目標に届かなかった。しかし、学年での英語の基礎固めの取組が準2級合格にある程度つながったと考えている。
○課外活動 オープンキャンパス参加100% 課外活動参加100% TSを活動報告書に書ける内容まで高める 放課後課外講座 受講資格を明確にし、3段階 のレベル別講座を開講し、上位を目指す	B	海外研修と重なったことによりオープンキャンパスへ全員が参加することはできなかったが、夢ナビLIVEにはほぼ全員が参加することができた。 課外活動にはときめきサポート事業や個人でのボランティアなどによって半数ほどが参加できた。 放課後講座は3段階のレベルで展開したが、生徒が求めるものとの違いがあったため、2レベル展開に縮小し継続している。 TSは現在取り組んでおり成果は未知だが、比較的楽しそうに取り組んでいる。

5学年 現実を直視する

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○志望大学・志望学科の志望理由書を作成 100%	A	全員が大学調べやオープンキャンパスの経験を踏まえて志望理由書を作成することができた。
○共通テストプレ 志望大学の得点率を達成 50%	B	共通テスト模試での換算点で60%以上の生徒が志望大学(第1志望～第3志望)のボーダー得点率以上を獲得することができた。
○スタディーサポート・進研模試 GTZ S3以上30名以上、A3以上70名以上	C	7月進研模試 S3以上14名、A3以上59名であり、目標には届かなかった。
○全統高2模試 3教科偏差値 60以上30名以上、50以上70名以上	B	2月全統共通テスト模試 60以上27名、50以上60名であり、目標にはわずかに届かなかった。
○英語検定 準1級10名以上、2級以上50%以上、 準2級以上80%以上	C	準1級6名、2級以上43%、準2級以上74%と目標には届かなかった。受験の声掛け不足であった。
○ボランティア・外部コンテストの参加を促す	B	昨年に比べ、ボランティアへの参加者は減ったが三重県高等学校科学オリンピック大会や名古屋みらいプロジェクトなどの外部コンテストの参加者は増加した。

6学年 点滴穿石

教育目標・重点行動計画	A,B,C 評価	期末 自己評価
○共通テストにおける得点率 75%以上20名以上、60%以上50名以上	C	75%以上15名 60%以上40名 数値目標には届かなかったものの、それぞれが最後まで力を抜くことなく、堅実に進路開拓をすることができた。
○全統記述模試 総合偏差値 60以上20名以上、50以上50名以上	C	第三回全統記述模試 60以上14名 50以上40名 数値目標には届かなかったが、生徒一人ひとり、目標の進路実現に向けて学び続けた。
○放課後講座の充実 理科(化学、物理、生物)、英語最難関・準難関、英作文、基礎英文法、古典、小論文・面接、各教科添削指導等	A	放課後講座の定期的な実施、また共通テスト後の二次対策の講座、添削・面接指導など、関係教員の協力のもと、最後まで生徒一人ひとり進路実現をサポートすることができた。

保護者アンケート 集計			令和5年度(12月)				令和6年度(7月)				令和6年度(12月)			
			そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない
1	教育目標	建学の精神である「誠実で信頼される人に」が生徒や保護者に明確に示され、学校教育目標に基づき運営されている	43.1%	50.2%	6.2%	0.5%	42.7%	50.9%	5.8%	0.5%	41.2%	49.6%	7.0%	2.2%
2	学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの状況や習熟度に応じた適切な指導をしている	43.2%	46.9%	7.9%	1.9%	43.7%	47.0%	8.7%	0.5%	41.2%	44.2%	11.9%	2.7%
3	進路指導	学年に応じた進路指導が充実している	48.9%	43.3%	7.2%	0.5%	47.7%	45.1%	6.6%	0.6%	42.3%	47.7%	8.9%	1.1%
4	生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている	37.7%	51.0%	9.3%	1.9%	41.7%	48.1%	9.3%	0.9%	30.5%	55.0%	11.6%	3.0%
5	教育相談	一人ひとりの生徒の様子を常に把握し、親身になって悩みや相談にのってくれる	46.3%	46.3%	6.0%	1.4%	48.0%	42.3%	9.2%	0.5%	44.2%	42.0%	11.3%	2.4%
6	学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会が多い	41.5%	44.4%	12.3%	1.8%	46.0%	43.6%	9.3%	1.1%	36.9%	49.3%	11.9%	1.9%
7		保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	46.8%	47.4%	3.9%	1.9%	47.5%	47.3%	4.4%	0.7%	46.9%	45.3%	5.9%	1.9%
8	教育環境	安心・安全で満足のいく施設・設備である	57.7%	38.0%	3.2%	1.1%	58.0%	37.4%	3.8%	0.7%	50.1%	44.5%	4.6%	0.8%
9	家庭との連携	学校からの情報はメール配信・ホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている	51.1%	42.4%	5.8%	0.7%	48.5%	43.1%	7.6%	0.7%	50.9%	35.8%	12.1%	1.1%
10		保護者会活動が活発である	30.0%	59.1%	10.6%	0.4%	32.9%	55.3%	11.2%	0.6%	23.5%	54.7%	19.7%	2.2%
11	満足度	子どもを入学させてよかった	60.6%	34.6%	3.5%	1.2%	60.2%	35.2%	4.0%	0.5%	58.0%	34.8%	6.7%	0.5%

令和6年度 重点目標・行動計画 鈴鹿中等教育学校

建学の精神 「誠実で信頼される人に」
学園経営方針 「生徒、保護者、地域の満足度向上」
目指す人物像 「主体性ある自由な人」

教育実践目標

1. 主体的な学びを育み、真の学力を養成します
2. 自主・自律の校風づくりをします
3. 違いを認め合い、自他を尊重する仲間づくり

重点目標及び行動計画

1 中等教育学校教育実践の振り返り 中高一貫教育の特長を

- ① 成果と課題の整理から次なる改善と3つのポリシー策定
- ② 性暴力の当事者にしないための生命の安全教育、性教育の体系化に基づく実践
- ③ 差別をなくすための人権教育の体系化に基づく実践
- ④ 広報活動のさらなる充実、SNSを活用した情報発信の導入
- ⑤ シラバスの適正化、授業研究の推進

2 進学指導の充実

- ① キャリア教育の体系化と各学年の取組ガイドラインの策定と実践
- ② 総合型選抜や学校推薦型入試への対応
小論文・面接・志願書等への対応強化

3 主体性ある生徒の育成

- ① 主体的な学びを促進する指導法の研究および実践
- ② 自ら進んであいさつをする生徒の育成
- ③ 生徒会活動の活性化
- ④ 防災意識向上を目指して 生徒防災リーダーの育成
- ⑤ 校外のコンテスト、ボランティア活動、英検等資格取得の奨励
- ⑥ 一人一台パソコンの導入（1年生）とICT教育の充実

4 教育環境の向上

- ① ベルアリーナ、サブアリーナの床改修と空調機器設置
- ② 西館トイレのリニューアル（全面シャワートイレの設置）
- ③ 本館バリアフリー化に向けての研究および準備

5 教職員にとってやりがいのある環境づくり 働き方改革に向けて

- ① 業務の見直し、改革・削減をめざして、新たな統合型校務支援システムの今年度導入による業務効率化のさらなる推進
- ② 業務のスクラップ&ビルドの推進
- ③ 施設設備の中期計画（令和7年度～16年度）策定

6 創立40周年（令和8年）記念事業の計画準備



学年目標

1 学年「凡事徹底」

- 総合や学活を通して、生徒間の交流の機会を多く持ち、様々な考えや価値観に触れる
- 自己管理・挨拶
手帳、Classi の入力率 100%
提出物の提出率 100%
挨拶 聞こえる声で挨拶ができる 100%
自ら挨拶ができる 70%以上
- 学習面
学習時間 平日1時間以上、休日3時間以上
BCの平均得点率 医進：80%以上、
特進：60%以上、
全体：70%以上
- 第2回学力推移調査（9月実施）
偏差値A1以上30名以上、B1以上60名以上
- 英語検定 英検取得者数 70%以上

2 学年「基礎・基本の完成」

- 長期休暇を利用して、学問調べや職業調べ取り組む
- 手帳とClassi の入力100%、忘れ物0に
- 学習時間 課題などの取組を除いて、平日60分以上、休日180分以上
- 第2回学力推移調査（9月実施）
偏差値 A1以上25名以上、
B1以上65名以上、D層 10名未満
- 英語検定
3級以上取得者または受験者数 90%以上

3 学年「明るく、楽しく、元気よく」

- 第3回学力推移調査（1月実施）
偏差値 A1以上16名以上、B1以上45名以上
D層10名以下
- 英語検定
準2級以上40名以上、3級以上80名以上
- 学年団の研鑽
研究授業を年7回以上実施し、授業力の向上
業務の精選

4 学年「百折不撓」

- スタディーサポート・進研模試 総合・各教科
A1以上35名以上、B1以上90名以上
- 全統高1模試 総合・各教科
偏差値60以上35名以上、50以上90名以上
- 英語検定
2級以上45名以上、準2級以上90名以上
- 課外活動
オープンキャンパス参加100%
課外活動参加100%
TSを活動報告書に書ける内容まで高める
放課後課外講座 受講資格を明確にし、3段階のレベル別講座を開講し、上位を目指す

5 学年「現実を直視する」

- 志望大学・志望学科の志望理由書を作成 100%
- 共通テストプレ 志望大学の得点率を達成 50%
- スタディーサポート・進研模試
GTZ S3以上30名以上、A3以上70名以上、
- 全統高2模試 3教科偏差値
60以上30名以上、50以上70名以上
- 英語検定
準1級10名以上、2級以上50%以上、準2級以上80%以上
- ボランティア・外部コンテストの参加を促す

6 学年「点滴穿石」

- 共通テストにおける得点率
75%以上20名以上、60%以上50名以上
- 全統記述模試 総合偏差値
60以上20名以上、50以上50名以上
- 放課後講座の充実 理科（化学、物理、生物）、
英語最難関・準難関、英作文、基礎英文法、古典、
小論文・面接、各教科添削指導等

各教科の目標

ホームページに目標およびシラバスを掲載していますのでご覧ください。



学校法人 鈴鹿享栄学園

鈴鹿中等教育学校